4. PCソフトウェア eXport

1. eXportソフトウェアを起動させます。

2. ファイル → 新しいプロジェクトを選択してプロジェクトを作成します。

77	イル インボート エクスボート	設定 ツール Cloud	ヘルプ												
1	新しいプロジェクト	ケーブル・ラベル	~			1									
1	プロジェクトを開く	1				_								_	_
B	プロジェクトの保存			テスト	デバイス	ケーブル	全体の 結果	リミット	全長	NEXTマー ジン(dB)	RLマージ ン(dB)	λ1最悪マー ジン(dB)	λ2最悪マー ジン(dB)	941 1	42
	プロジェクトを閉じます。			217	217	2.41	WD IN	212	4-1	55 (40)	5 (00)	55 (55)	55 (46)		-
	最近使用したプロジェクト ▶														
×	閉じる	1													

- 3. セーブされた結果をeXportにインポートします。
 - ・WX4500本体からインポート: インポート → デバイスを選択して結果をインポートします。 ・USBからインポート: インポート → USBドライブを選択して結果をインポートします。 ・PCからインポート: **インポート** \rightarrow **PCから**を選択して結果をインポートします。

170 1	=11/7	-													
	USBドライブ		ケーブル・ラベル	~											
	PC/b6				코자	デバイス	ケーブル	全体の	リミット	全長	NEXT -	RLマージ	λ1最悪マー (1)、(4P)	λ2最悪マー	5/122
6	From Cloud				24.2	- 94 2	- 200	₹©#	2917	qui j) (ub)	J (ub)	(J) (UB)	99 (ub)	3,77
6	OTDR														
	Other Format														

4. セーブされた結果をエクスポート(出力)します。

・PDF形式: **エクスポート** \rightarrow **PDF** \rightarrow 概要 or 詳細を選択して結果を出力します。 ・CSV形式: エクスポート → CSV → 概要 or 詳細を選択して結果を出力します。

X eXport													-		×
ファイル インボート エ	Eクスポート 設	定 ツール Cloud	ヘルプ												
	PDF F	ケーブル・ラベル	~												
C				テスト タイプ	デバイス ・タイプ	ケーブル ・ラベル	全体の 結果	リミット タイプ	全長 (m)	NEXTマー ジン (dB)	RLマージ ン (dB)	λ1最悪マー ジン (dB)	λ2最悪マー ジン (dB)	外1 死	22

5. インポート後、結果リストをダブルクリックすると結果の詳細が別画面で表示されます。

	「-ト 副定 ツール Clou	d ^//7			1						
New Project			テスト タイプ	デバイス	ケーブル ・ラベル	全体の 結果	リミットタイプ	全長 (m)	NEXTマー ジン (dB)	RLマージ ン(dB)	5H6255JT
Unspecified		▶ 1	ツイストペア	WX4500	3sb5-3sb6.1	4	TIA - Cat 6 Channel	6.9	12.30	13.40	21/02/2019 10:22:10 午前
all a		2	19121-RP	WX4500	3sb5-3sb6.2	~	TIA - Cat 6 Channel	6.9	11.80	13.40	21/02/2019 10:22:57 午前
		3	ツイストペア	WX4500	3eb5-3eb6.3	~	TIA - Cat 6 Channel	6.9	12.20	13.40	21/02/2019 10:23:50 午前
		4	ツイストペア	WX4500	3sa1-3sb6.1	~	TIA - Cat 6 Channel	13.6	11.90	16.90	21/02/2019 10:24:48 午前
(ツイストペア - 3sb5-3s	b6.1										- 0
ファイル エクスポート	設定										
			1								
★ 挿八根大	U USCOLIX V NEXT	PSNEXT	MORE	V PSAURP	¥ 18C 0 18	₩ ¥ 1241	NEXTU9-9 RL	09-9-	Plots Overview		
	pw20100021 Generic UTP CAT 6 UTP Unshielded				合格	×,				pw20100022	\$C JE−►
PassFail	Measurement	7-3	ジン (dB)								
	挿入損失					1 🚥					1
0	リターンロス	13.4				- Ó-				_	0
~	NEXT	12.3				5-		-			5
~	PSNEXT	12.7				2.0					2
~	ACRF	17.1				6=				_	6
						_					

リスト ベイスド テスティング

リスト ベイスド テスティング機能は、PCソフトウェアのeXportでラベルリストを作成します。作 成したラベルリストをワイヤーエキスパートにロードして使用します。

1. PCソフトウェアeXportで作成したラベルリストをUSBにコピーします。

- 2. ローカルユニットにUSBを挿入します。
- 3. ラベルリストを選択してインポートしたいファイルを選択します。(USB自動認識)
- 4. ラベルファイルをコピーを選択します。ファイルがコピーされます。



5. SETUP \rightarrow プロジェクト設定 \rightarrow ラベル名の候補 \rightarrow リスト ベイスド テスティングを 選択します。

6. リストからラベルソースを選択します。自動的にインポートされます。



- オートテストが開始します。
- 6. 合格(PASS)の場合は、自動的に保存されます。



ワイヤーエキスパート用シングルモード(SM)光テストアダプタは、シングルモードファイバの認 証試験にご利用になれます。1310/1550nmの2波長を同時に測定できます。

構成品

- 2 ジャンパー用SC-SCカプラ
- クリーナーキット(コネクタ清掃用)
- < オプションキット >
- LCコネクタコードキット
- STコネクタコードキット



シングルモードアダプタセット (WX_AD_SM2)

■ シングルモード用テストアダプタ(波長1310/1550nm LED光源) × 1セット

■ 両端SCコネクタ付デュプレクスリファレンスコード(2m) × 2本





> 設定

・シングルエンド/デュアルエンド

シングルエンドはローカルユニットのみを使用してリファレンスとオートテストをループバックで実行し ます。デュアルエンドはローカルとリモートユニットを使用してリファレンスとオートテストをEnd-to-Endで実行します。

・1/2/3ジャンプーリファレンス方法

要求に応じて1,2,3ジャンパーからリファレンス方法を選択します。3ジャンパーの場合には、追加 のリファレンステストコードが必要です。

·単一方向/双方向

単一方向は、ファイバ1をローカルTXとリモートRX、ファイバ2リモートTXとローカルRXを接続テス トを実行します。双方向は、TXとRXの接続を交換して2回テストを実行します。



> プロジェクト設定

・現場

AUTOTEST結果を保存するフォルダーを作成します。

·作業者名

作業者名を作成します。

・ラベル名の候補

AUTOTEST結果保存のためのラベリング方式を作成します。手動で入力する場合は、NONE を選択します。eXportで作成したラベリング方法は、リスト ベイスト テスティングを選択します。

·自動保存

有効時は、結果がPASS(合格)時のみ自動で保存されます。オプションは、リスト ベイスト テス ティングのために有効です。

> テスト条件の設定

` UTOTES'

以下のようにローカルユニットとリモートユニットの間に測定ファイバを接続します。

規格からテスト規格を選択します。測定リンク内にコネクタおよびスプライスがある場合は、数を 入力します。1/2/3ジャンパーを選択するおtリファレンス設定およびオートテスト間で使用され るコネクタ数は、自動的に含まれています。

リファレンス設定またはオートテストを実行する前にテスト条件の設定→テスト規格→標準の



ケーブル設定

テスト条件の設定→ケーブルからケーブルメーカを選択します。メーカが不明の場合は Generic SMFもしくはGeneric MMFを選択します。カスタム仕様の場合は、Customized Cableを選択して設定します。



- 1. 添付のクリーナーでテストコードとアダプタを清掃します。
- 2. リファレンス方法を選択します。添付のテストコードを使用して、画面の接続方法を 参考にリファレンス設定を行います。
- 3. 接続を確認して、基準値の設定の"> "をクリックしてリファレンス設定を実行します。
- 4. リファレンス値が-3 ~ -9dBm以内に入っていることを確認します。 (シングルモード、マルチモード同じ値です。)
- 5.1ジャンパーリファレンス設定の場合は、確認テスト実行します。 (詳細は、クイックマニュアルを参照してください)

	シングルモード (SM)	マルチモード (MM)	エンサークルド フラックス (MM-EF)
リファレンス設定	-3 ~ -	9dBm	-18 ~ -20dBm
確認テスト	0.2dB		0.1dB



【AUTOTEST】ボタンで認証テストを実行します。

AUTOTEST結果の表示

AUTOTESTの後に各波長の最悪値のサマリー結果が表示されます。 波長をクリックすると詳細結果を確認できます



AUTOTEST結果の保存

018-	12-14	60%	2018-1
(A-6 TIA-568.3	ISP	5^*.
	✓ 0.20 m	Ì	
	1310rm	0.97 dB >	
/	1550nm ネットワーク規格	1.13 dB>	1 2 q W
	次のラベル	A-7	a s
	- † ÷		12?

テスト結果は、【保存】ボタンで手動で保存することができます。自動保存が有効の場合また は、リストベイストテスティングモードの場合は、合格(PASS)時のみ自動で保存されます。不 合格の場合は、手動で保存することができます。



AUTOTEST

